

4 看護学部

1) 平成20年度時間割

① 1年前期

		月		火	水	木	金
		前半(第1~7.5週)	後半(第7.5~15週)				
1	9:00 ~ 10:30			看護観察技術論 大野(夏) 佐藤(公) 星 ※隔週開講	情報リテラシーⅠ 柿山		人間関係を考える 椿
2	10:40 ~ 12:10			看護観察技術論 大野(夏) 佐藤(公) 星 ※隔週開講	情報リテラシーⅠ 柿山	日本語表現法 千葉 英語ⅠA 清水(香) 英語ⅠB 松井 英語ⅠA 水島 英語ⅠC マッドヴァ	哲学と倫理 山田(友)
3	13:10 ~ 14:40	形態機能学Ⅰ 高野(廣)			英語ⅠA 水島 英語ⅠB 向井 英語ⅠC マッドヴァ 英語ⅠC バトリシア	日本語表現法 千葉 英語ⅠA 清水(香) 英語ⅠB 松井 英語ⅠA 水島 英語ⅠC マッドヴァ	札幌を学ぶ 原
4	14:50 ~ 16:20	形態機能学Ⅰ 高野(廣)			英語ⅠA 水島 英語ⅠB 向井 英語ⅠC マッドヴァ 英語ⅠC バトリシア	スタートアップ演習 原、中原、 樋之津 ※他両学部教員計19名	基礎カウンセリング 小坂 英語ⅠA 大野(拓) 英語ⅠB 白土 英語ⅠB 町田 英語ⅠC バトリシア
5	16:30 ~ 18:00	看護学原論 河野 地域保健学概論 清水(光) 加藤 新納			体のしくみ 杉原	スタートアップ演習 原、中原、 樋之津 ※他両学部教員計19名	基礎カウンセリング 小坂 英語ⅠA 大野(拓) 英語ⅠB 白土 英語ⅠB 町田 英語ⅠC バトリシア

※集中講義：看護初期実習 6月9日～6月13日

② 1年後期

		月		火		水	木	金
		前半(第1~7.5週)	後半(第7.5~15週)	前半(第1~7.5週)	後半(第7.5~15週)			
1	9:00 ~ 10:30	病理病態学 小林		薬理学 富樫 看護過程論 渡邊 大野(夏) 佐藤(公)		現代社会と家族 原	情報リテラシーⅡ 柿山 手話 高橋	
2	10:40 ~ 12:10	病理病態学 小林		看護理論 中村 看護過程論 渡邊 大野(夏) 佐藤(公)	英語ⅡA 水島 英語ⅡA 町田 英語ⅡB 松井 英語ⅡC バトリシア	芸術と文化 望月	情報リテラシーⅡ 柿山 手話 高橋	
3	13:10 ~ 14:40	基礎看護技術論 佐藤(公) 樋之津 大野(夏) 菊地 藤井 星 渡邊 三上(智)	形態機能学Ⅱ 高野(廣)		英語ⅡA 水島 英語ⅡA 町田 英語ⅡB 松井 英語ⅡC バトリシア	プレゼンテーション 武田 柿山 英語ⅡA 清水(香) 英語ⅡB 向井 英語ⅡB 松井 英語ⅡC マッドヴァ	英語ⅡA 大野(拓) 英語ⅡB 白土 英語ⅡC バトリシア 英語ⅡC マッドヴァ 対人コミュニケーション 町田	
4	14:50 ~ 16:20	基礎看護技術論 佐藤(公) 樋之津 大野(夏) 菊地 藤井 星 渡邊 三上(智)	形態機能学Ⅱ 高野(廣)		宗教と思想 堀	プレゼンテーション 武田 柿山 英語ⅡA 清水(香) 英語ⅡB 向井 英語ⅡB 松井 英語ⅡC マッドヴァ	英語ⅡA 大野(拓) 英語ⅡB 白土 英語ⅡC バトリシア 英語ⅡC マッドヴァ 対人コミュニケーション 町田	
5	16:30 ~ 18:00	感染予防論 滝沢		人間発達援助論 宮崎 中村 坂倉 松浦	心のしくみ 橋本	統計の世界 原	現代社会と経済 近藤(公)	

※集中講義：基礎看護学臨地実習Ⅰ 10月20日～10月24日

③ 2年前期

		月		火	水		木		金	
		前半(第1~7.5週)	後半(第7.5~15週)		前半(第1~7.5週)	後半(第7.5~15週)	前半(第1~7.5週)	後半(第7.5~15週)	前半(第1~7.5週)	後半(第7.5~15週)
1	9:00 ~ 10:30	人間工学 樋之津 佐藤(秀)		ジェンダーを考える ロシア語 川畑 ジダーノフ	生命科学 山田(恵)	社会福祉学 大内		環境保健 加藤 齋藤(健)	老年看護学概論 坂倉	
2	10:40 ~ 12:10	疾病治療学B 向井		実践英語A 実践英語A ロシア語 中国語 松井 町田 ジダーノフ 照井(は)	医療情報 小笠原		疾病治療学A 小倉	臨床栄養学 高野(良)		
3	13:10 ~ 14:40	公衆衛生学 村松(宰)	家族社会学 原	実践英語B 実践英語B ロシア語 中国語 バトリシア マammadヴァ ジダーノフ 照井(は)	生命倫理 村上		疾病治療学概論 富樫(武)	症状マネジメント論 樋之津 大野(夏) 須田 菅原 藤井 村松(真)		
4	14:50 ~ 16:20	成人看護学概論 中村	成人看護援助論 須田 中村 菅原	現代社会と国際関係 健康とスポーツ 佐々木 林	精神看護学概論 山本			症状マネジメント論 樋之津 大野(夏) 須田 菅原 藤井 村松(真)		
5	16:30 ~ 18:00		成人看護援助論 須田 中村 菅原	グループ・ダイナミクス ボランティア活動を考える 鹿内 小沼						

※集中講義：基礎看護学臨地実習Ⅱ 5月26日～6月6日

④ 2年後期

		月		火	水		木		金	
		前半(第1~7.5週)	後半(第7.5~15週)		前半(第1~7.5週)	後半(第7.5~15週)	前半(第1~7.5週)	後半(第7.5~15週)	前半(第1~7.5週)	後半(第7.5~15週)
1	9:00 ~ 10:30		精神看護援助論 守村 安田	教育を考える 竹中			臨床薬理学 唯野	援助的人間関係論 大野(夏) 樋之津 藤井	在宅看護援助論 菊地 坂倉 工藤	
2	10:40 ~ 12:10	母性看護学概論 宮崎	精神看護援助論 守村 安田	環境を考える 実践英語A 矢部 町田	臨床心理学 葛西		小児看護学概論 松浦	看護倫理学 宮崎 リボウィッツ	援助的人間関係論 大野(夏) 樋之津 藤井	在宅看護援助論 菊地 坂倉 工藤
3	13:10 ~ 14:40	韓国語 松田			疾病治療学C 三澤		がん看護学 樋之津 松山	老年看護援助論 坂倉 村松(真) 東出		
4	14:50 ~ 16:20	在宅看護学概論 中村					がん看護学 樋之津 松山	老年看護援助論 坂倉 村松(真) 東出		
5	16:30 ~ 18:00	感染管理論 スーディ 石角	チーム医療論 河野 中村				手話 高橋			

※集中講義：成人看護学臨地実習Ⅰ 11月4日～11月21日

⑤ 3年前期

		月		火		水		木		金	
		前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	保健統計 村松(幸)		小児看護援助論 松浦 吉川 富樫(武)				成人看護技術論 須田 菅原 藤井 神島		リハビリテーション看護 奥宮 石鍋 佐久間	
2	10:40 ～ 12:10	保健統計 村松(幸)		小児看護援助論 松浦 吉川 富樫(武)				成人看護技術論 須田 菅原 藤井 神島		リハビリテーション看護 奥宮 石鍋 佐久間	
3	13:10 ～ 14:40			在宅看護技術論 菊地 坂倉 保田 照井(レ)		保健医療福祉制度論 館石		精神看護技術論 守村 河村		地域看護学概論 加藤 清水(光) 金川	
4	14:50 ～ 16:20	認知症ケア スーディ		在宅看護技術論 菊地 坂倉 保田 照井(レ)		保健医療福祉制度論 館石		精神看護技術論 守村 河村		母性看護援助論 宮崎 高室 内田	
5	16:30 ～ 18:00	認知症ケア スーディ								母性看護援助論 宮崎 高室 内田	

※集中講義：老年看護学臨地実習Ⅰ 5月19日～5月23日
成人看護学臨地実習Ⅱ、精神看護学臨地実習、在宅看護学臨地実習 6月23日～8月1日

⑥ 3年後期

		月		火		水		木		金	
		前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	研究方法論 松浦 樋之津		小児看護技術論 吉川 松浦		看護教育学 近藤(潤)		地域看護援助論 清水(光) 加藤 新納 保田 塚辺 松村		ペリネタルケア 吉川 高室	
2	10:40 ～ 12:10	研究方法論 松浦 樋之津		小児看護技術論 吉川 松浦		透析ケア 城下 佐々木		地域看護援助論 清水(光) 加藤 新納 保田 塚辺 松村		救急看護学 菅原 中村 三上(剛)	
3	13:10 ～ 14:40	寒冷地医療 前沢		健康教育指導法 加藤 清水(光) 新納 保田 松村		バリアティブケア 石垣		重症集中ケア 菅原 中村 小山		母性看護技術論 高室 宮崎 渡邊 多賀	
4	14:50 ～ 16:20	地域看護援助論 清水(光) 加藤 新納 保田 塚辺 松村		健康教育指導法 加藤 清水(光) 新納 保田 松村				老年看護技術論 村松(真) 坂倉 進藤		母性看護技術論 高室 宮崎 渡邊 多賀	
5	16:30 ～ 18:00	地域看護援助論 清水(光) 加藤 新納 保田 塚辺 松村		学部連携演習 河野 齋藤(利) ※他両学部教員計29名				老年看護技術論 村松(真) 坂倉 進藤		放射線医療管理論 池田	

※集中講義：母性看護学臨地実習、小児看護学臨地実習、老年看護学臨地実習Ⅱ 11月25日～12月19日、1月19日～1月30日

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	修得単位数	
		必修	選択			
共通教育科目	導入科目	2		1年前期	2単位	
	文化に対する理解	哲学と倫理		2	1年前期	4単位以上
		宗教と思想		2	1年後期	
		芸術と文化		2	1年後期	
		環境を考える 教育を考える		2	2年後期	
	人間に対する理解	心のしくみ		2	1年後期	4単位以上
		体のしくみ		2	1年前期	
		ジェンダーを考える		2	2年前期	
		人間関係を考える 健康とスポーツ		2	1年前期	
	社会に対する理解	現代社会と家族		2	1年後期	6単位以上
現代社会と国際関係			2	2年前期		
現代社会と経済			2	1年後期		
札幌を学ぶ ボランティア活動を考える 統計の世界			2	2年前期		
コミュニケーション科目	外国語	英語ⅠA	1	1年前期	8単位以上	
		英語ⅠB	1	1年前期		
		英語ⅠC	1	1年前期		
		英語ⅡA	1	1年後期		
		英語ⅡB	1	1年後期		
		英語ⅡC	1	1年後期		
		実践英語A	1	2年前期		
		実践英語B	1	2年前期		
		韓国語	1	2年後期		
		中国語	1	2年前期		
ロシア語	1	2年前期				
コミュニケーション・情報技術	日本語表現法		1	1年前期	4単位以上	
	プレゼンテーション		1	1年後期		
	基礎カウンスリング		1	1年前期		
	対人コミュニケーション		1	1年前期		
	グループ・ダイナミックス		1	2年前期		
	手話		1	1年後期		
情報リテラシーⅠ	1		1年前期			
情報リテラシーⅡ	1		1年前期			
合計					28単位以上	

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	修得単位数	
		必修	選択			
専門基礎科目	人間と命	形態機能学Ⅰ	2	1年前期	5単位以上	
		形態機能学Ⅱ	2	1年後期		
		生命科学	1	2年前期		
		生命倫理	1	2年前期		
		環境保健	1	2年前期		
		人間工学	1	2年前期		
	健康と健康障害と予防	薬理学	1	1	1年後期	10単位
		臨床薬理学	1	1	2年後期	
		臨床栄養学	1	1	2年前期	
		病理病態学	2	1	1年後期	
疾病治療学概論		1	1	2年前期		
疾病治療学A	1	1	2年前期			
疾病治療学B	1	1	2年前期			
疾病治療学C	1	1	2年後期			
感染予防論	1	1	1年後期			
保健と医療と福祉	公衆衛生学	1	1	2年前期	6単位以上	
	社会福祉学		1	2年前期		
	家族社会学		1	2年前期		
	チーム医療論		1	2年後期		
	感染管理論		1	2年後期		
	臨床心理学		1	2年後期		
	地域保健学概論	1	1	1年前期		
	保健医療福祉制度論	1	1	3年前期		
	保健統計	1	1	3年前期		
	医療情報	1	1	2年前期		
合計					21単位以上	

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	修得単位数		
		必修	選択				
専門教育科目	看護の基礎となるもの	看護の基礎となるもの	ヒューマンケアの基本	看護学原論	1	1年前期	7単位
				看護理論	1	1年後期	
				援助的人間関係論	1	2年後期	
				人間発達援助論	1	1年後期	
				看護初期実習	1	1年前期	
				看護倫理学	1	2年後期	
				健康教育指導法	1	3年後期	
		看護の基本的展開	看護過程論	1	1	1年後期	10単位
			看護観察技術論	1	1	1年前期	
			症状マネジメント論	2	2	2年前期	
小児	基礎看護技術論	2	2	1年後期	5単位		
	基礎看護学臨床実習Ⅰ	1	1	1年前期			
	基礎看護学臨床実習Ⅱ	2	2	2年前期			
	研究方法論	1	1	3年後期			
	小児看護学概論	1	1	2年後期			
母性	小児看護援助論	1	1	3年前期	5単位		
	小児看護技術論	1	1	3年後期			
	小児看護学臨床実習	2	2	3年後期			
	母性看護学概論	1	1	2年後期			
成人	母性看護援助論	1	1	3年前期	5単位		
	母性看護技術論	1	1	3年後期			
	母性看護学臨床実習	2	2	3年後期			
	成人看護学概論	1	1	2年前期			
	成人看護援助論	1	1	2年前期			
老年	成人看護技術論	1	1	3年前期	8単位		
	成人看護学臨床実習Ⅰ	3	3	2年後期			
	成人看護学臨床実習Ⅱ	2	2	3年前期			
	老年看護学概論	1	1	2年前期			
精神	老年看護援助論	1	1	2年後期	6単位		
	老年看護技術論	1	1	3年前期			
	老年看護学臨床実習Ⅰ	1	1	3年後期			
	老年看護学臨床実習Ⅱ	2	2	3年後期			
在宅	精神看護学概論	1	1	2年前期	5単位		
	精神看護援助論	1	1	2年後期			
	精神看護技術論	1	1	3年前期			
	精神看護学臨床実習	2	2	3年前期			
健康問題への対応	在宅看護学概論	1	1	2年後期	5単位		
	在宅看護援助論	1	1	2年後期			
	在宅看護技術論	1	1	3年前期			
	在宅看護学臨床実習	2	2	3年前期			
	リハビリテーション看護学	1	1	3年前期			
	がん看護学	1	1	2年後期			
	認知症ケア	1	1	3年前期			
	透析ケア	1	1	3年後期			
	重症集中ケア	1	1	3年前期			
	救急看護学	1	1	3年後期			
放射線医療管理論	1	1	3年後期				
ペリネイタルケア	1	1	3年後期				
パリアティブケア	1	1	3年後期				
寒冷地医療	1	1	3年後期				
コミュニティケアに関するもの	地域看護学概論	1	1	3年前期	8単位		
	地域看護援助論	2	2	3年後期			
	地域看護技術論	1	1	4年前期			
	ヘルスプロモーション活動論	1	1	4年前期			
	地域看護学臨床実習	3	3	4年前期			
発展・統合に関するもの	看護管理学	1	1	4年前期	11単位以上		
	看護教育学	1	1	3年後期			
	卒業研究	4	4	4年			
	ヘルスマネジメント実習	3	3	4年後期			
	看護情報学		1	4年前期			
	災害看護学		1	4年前期			
	国際看護学		1	4年前期			
	国際保健学		1	4年前期			
	医療経営学		1	4年前期			
	医療安全管理論		1	4年前期			
現代専門職論		1	4年前期				
学部連携	学部連携演習	2		3後~4前	2単位		
合計					77単位以上		

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学者選抜結果

附属図書館

役員会
及び教育
研究審議会

学内運営の概要

資料

② 卒業要件

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	12	16	28
専門教育科目	92	6	98
(専門基礎科目)	(19)	(2)	(21)
(専門科目)	(73)	(4)	(77)
合計	104	22	126

3) 教育活動

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
形態機能学 I ★高野 廣子	演習 60時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】形態機能学では、生命現象を論理的に思考できるように、身体の構造と機能について学習する。形態機能学 I では、1.人体を構成する細胞・組織の基本構造と機能を学ぶ。2.身体全体を統合し調節する神経系と内分泌系の構造と機能を、病態に関連づけて学習する。3.循環器系、呼吸器系、泌尿器系、消化器系、血液・造血器、免疫組織の構造と機能を、病態に関連づけて学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 細胞と組織の種類、およびそれらの構造と機能を説明できる。 2 中枢神経系、末梢神経系、内分泌器、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、消化器系、血液・造血器、免疫組織について構造と機能を説明できる。
地域保健学概論 ◎清水 光子 加藤 登紀子 新納 美美	講義 15時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】保健・医療・福祉の考え方を基盤に、住民主体の保健・医療・福祉活動の基本理念や考え方について学習する。また、地域保健・産業保健の基本的な知識と保健指導の基礎について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人々が生活を営む上での健康の意義を述べることができる。 2 地域で生活している人々の健康と生活の質の向上を意図した保健活動の概要が理解できる。 3 様々な健康課題の解決に向けて、保健・医療・福祉対策が講じられていることを知る。
看護学原論 河野 總子	講義 15時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】看護学の構築（要素）を基盤とし、生活する人々の体験として健康と健康障害、それを巡る人々の取り組み、そこにかかわる看護実践の方法や場を通し、「看護とは何か」について考え、さらに発展させる基礎とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活体としての人間存在について、理解を深め、人々の体験として健康と健康障害について理解する。 2 看護活動の場と看護者の役割について学び、看護観の基礎を形成する。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・到達目標
看護初期実習 ◎大野 夏代 清水 光子 須田 恭子 守村 洋 吉川 由希子 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 菅原 美樹 高室 典子 新納 美美 藤井 瑞恵 星 美和子 村松 真澄 保田 玲子 渡邊 由加利	実習 45時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】 看護初期実習は、看護職が活動する保健・医療・福祉の場において、看護職や関連職種の活動を見学体験し、保健・医療・福祉分野への関心と理解を深め、看護学を学ぶ動機付けとする。看護の実際を見学することにより、他職種の専門性と看護職とのかかわりを理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護の対象は、様々な健康レベルにある人々であることを知る。 2 人々の健康生活を支える看護実践の場を知る。 3 保健・医療・福祉施設での看護場面を通して、看護の役割を考える。 4 対象者の健康上のニーズに対して保健・医療・福祉に関わる他職種との連携を知る。
看護観察技術論 ◎大野 夏代 佐藤 公美子 星 美和子	演習 30時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】 アセスメントを基本的人間観察論と位置付け、バイタルサイン及びフィジカルアセスメントを中心とした技術演習を行う。特に看護過程の一部として状態把握の基礎技術の重要性について演習を通して学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護における観察の目的を説明できる。 2 看護に必要な情報を収集・分析できる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 主観的・客観的な情報を区別できる。 ② バイタルサインの測定が正確にできる。 ③ フィジカルアセスメントの方法を学び、実施できる。 3 収集した情報を、記録・報告できる。 4 援助者として適切な姿勢や態度がとれる。
形態機能学Ⅱ ★高野 廣子	演習 60時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】 形態機能学Ⅱでは、1.生殖器系、感覚器系・運動器系について構造と機能を、病態に関連づけて学ぶ。2.食物の消化・吸収・代謝および体液の恒常性について基本的知識を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生殖器系と感覚器系についてその構造と機能を説明できる。 2 主要な骨・筋肉・血管・神経の解剖学名をいえる。 3 主要な筋肉の起始・停止・作用をいえる。 4 骨の形が合目的にできていることを説明できる。 5 食物の消化・吸収・代謝過程を説明できる。 6 体液の恒常性が維持される機序を説明できる。
薬理学 ★富樫 廣子	講義 15時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】 医薬品の生体に及ぼす作用を理解する上で必要な基礎的知識を習得し、医薬品の有効性、安全性、薬物が生体に作用する仕組みを幅広く学ぶ。</p> <p>【到達目標】 薬物の相互作用による副作用など、看護における注意点を理解する上で必要な基礎的知識を習得する。</p>
病理病態学 ★小林 正伸	演習 60時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】 病理学概念、病因論、病変の特徴、健康障害の仕組みについて学び、各器官における疾病を学ぶ上での基礎知識を習得する。また、人体に備わる病態からの回復機構とともに生体防御機構についての概要を理解する。</p> <p>【到達目標】 病気の成り立つメカニズムを理解する。主な疾患の症状、診断、治療法の概要を理解する。</p>

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学
者選
抜結
果附属
図書
館役員
会
及
び
教
育
研
究
審
議
会学内
運
営
の
概
要

資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・到達目標
感染予防論 ★滝沢 慶彦	講義 15時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】 微生物学的基礎を踏まえ感染症の概念、病原体の特徴と疾患、治療について理解し、免疫現象が病気・病態とどのようにかかわっているかを理解する。また、病原体と免疫反応から感染の予防について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ヒトに感染する病原微生物（細菌、ウイルス、原虫、真菌）の種類と、感染経路、症状、診断、治療、予防について覚えること。また、生体の防御機構について理解すること。</p>
看護理論 中村 恵子	講義 15時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】 看護の実践において用いられている看護理論の意義と理論構成について、歴史的発展を踏まえて理解する。また、それぞれの理論や看護モデルを通して、看護の主要な要素とその概念について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護理論の基礎となる概念（人間、看護、健康、環境）について理解できる。 2 看護理論発展の歴史について理解できる。 3 主な看護理論家が提唱する理論の基礎について学ぶ。
人間発達援助論 ◎宮崎 みち子 中村 恵子 坂倉 恵美子 松浦 和代	演習 30時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】 人間を生涯発達の視点でとらえ、人間発達の共通性と特異性を理解する。また、人間の発達段階各期における看護援助の視点を明らかにし、母性、小児、成人、老年における看護を理解するための基礎的知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間発達の共通性・特異性、および人間発達に影響を及ぼす因子を理解する。 2 発達理論の特徴を理解する。 3 人間の発達段階各期における看護援助の視点を理解する。
看護過程論 ◎渡邊 由加利 大野 夏代 佐藤 公美子	演習 30時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】 対象の健康問題を解決するために、アセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案、実施、評価の一連の“問題解決思考と行動”及びそれを支える看護理論を用いながら看護過程の実際を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護過程の意義と目的を説明できる。 2 看護過程の各段階について説明できる。 3 事例について、ヘンダーソンの看護の概念に基づき、看護過程を展開することができる。
基礎看護技術論 ◎佐藤 公美子 樋之津 淳子 大野 夏代 菊地 ひろみ 藤井 瑞恵 星 美和子 渡邊 由加利 三上 智子	演習 60時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】 対人関係の基本を学ぶとともに、看護行為に共通な援助技術、日常生活の行動を促進する技術、生命活動を支える技術、治療、処置に伴う援助技術などの導入として、看護の基本となる実践的援助技術を主体的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基礎看護技術の原則と根拠を明確にし、技術を修得する。 2 健康な人を対象にした一部の看護技術項目を、一人であるいは指導を受けながら安全に実践できる。 3 自主的に演習課題に取り組み、技術の修得に向けた学修態度がとれる。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・到達目標
基礎看護学臨地実習Ⅰ ◎佐藤 公美子 樋之津 淳子 大野 夏代 菊地 ひろみ 星 美和子 渡邊 由加利 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 進藤 ゆかり 多賀 昌江 塚辺 繭子 照井 レナ 松村 寛子 三上 智子 工藤 京子 小坂 美智代 鶴木 恭子 原井 美佳 測本 雅昭	実習 45時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入院患者の生活環境を知り、それらの思いや健康状態、健康ニーズを学ぶ。 2 入院患者に行われている看護について体験的に学ぶ。 3 入院患者とのかかわりを通して、ヒューマンケアの基本を学ぶ。 <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入院患者の生活環境を知る。 2 入院患者が、自分の健康状態や療養生活、自分が受けている看護をどのように認識しているかを知る。 3 健康障害のある人に対する看護の実際を知る。 4 保健医療福祉チームを構成している各部門の概要・役割・機能を知る。 5 看護学生として、倫理基準に基づき、安全で責任ある行動を示すことができる。 6 実習グループにおけるリーダー及びメンバーシップの役割関係を建設的・協力的に務めることができる。 7 実習を通して、ヒューマンケアについて学んだことを説明し今後の学習課題を明確にできる。
生命科学 ★山田 恵子	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 分子生物学からゲノムサイエンスまでの発展の歴史を概観しながら、生命観の変遷を学ぶ。生命の基礎である細胞、体を構成する主な成分について学び、さらに、生命科学の基本である遺伝情報について、遺伝情報の流れや遺伝子発現制御などに関する理解を深める。また、看護においても重要な対象である癌、老化と寿命、生活習慣病と遺伝子の関係について学び、生命と科学に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生命の単位である細胞について理解する。 2 細胞がどのようにエネルギーを産生し、外部エネルギーを取り入れるのかを理解する。 3 分子からみた生命現象を理解する。 4 遺伝情報はどのようにして発現するのかを理解する。 5 病気と遺伝子の関わりを理解する。
生命倫理 ★村上 友一	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 医療技術の発展と共に従来の生命観や価値観が対立するような事例が生じてきた。伝統的な価値観に自己決定の原則を加えただけで対応していくことには限界がある。本講義では、生命倫理の問題群の中から、終末期医療、脳死移植、生殖医療に論点を絞る。これらの問題について厚みのある理解をもつことが目指される。</p> <p>【到達目標】 本講義では、「知識」をもつことではなく、「問題意識」をもつことが目標とされる。「知識」だけでは、実際に問題に直面したときに適切な対処ができるとは思われないからである。紋切り型の回答を止めて、きちんと問題に向き合う姿勢が求められる。</p>

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学者選抜結果

附属図書館

役員会
及び教育
研究審議会

学内運営の概要

資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・到達目標
環境保健 ◎加藤 登紀子 ★齋藤 健	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】健康を考える上で、環境は重要なウエイトを占める。とりわけ、現代社会では人間活動の影響を強く受けた環境によって、かつて経験したことのない新たな健康問題が引き起こされている。環境破壊と健康障害等の事例から、健康にとって環境の持つ意味及びそれらが人間の活動にどれだけ影響を及ぼしているかを理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人々の健康や生活と環境との密接なかかわりを説明できる。 2 どのような人間活動が環境を破壊し、健康問題を引き起こしているか説明できる。 3 持続可能な循環型社会をつくるための環境行動について述べることができる。
人間工学 ◎樋之津 淳子 ★佐藤 秀一	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】保健・医療・福祉分野、看護援助における機械・器具、空間と人間との好ましい対応関係など、安全性・快適性・効率性を考慮した人間工学の基礎的な概念を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間工学の基礎的な概念と看護学との関係が説明できる。 2 人の動作に必要な機能の特性がわかる。 3 人の生体計測および動作分析方法の基礎を学ぶ。 4 看護ケア・福祉機器、病院環境の諸課題を人間工学の視点から説明できる。
臨床栄養学 ★高野 良子	演習 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的な栄養マネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康時の「栄養状態」を評価・判定できる。 2 「栄養状態の特徴」に応じた栄養マネジメントを理解できる。 3 患者に「栄養マネジメント」の基本を説明できる。
疾病治療学概論 富樫 武弘	演習 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】人の健康を損ねるものには極めて多くの疾病がある。しかしながら、多くの疾病に共通した発生の要因があり、いくつかの疾病で似たような特質を有している。ここでは、諸臓器の構造と機能をまず理解し、諸臓器に発生する主な疾病の症状並びに疾病発生の仕組み、検査の方法、治療法に関する基本的な知識を学ぶ。また、治療を行う上で必要となる麻酔法に関する基礎的な知識についても習得する。</p> <p>【到達目標】生命を維持し活動するためには全身諸臓器が単独で、また関連しあって正常な機能を発揮する必要がある。正常な機能を理解しさらに機能が破綻して疾病を発症する機構を理解することを到達目標とする。また疾病の診断方法、検査法を理解することを到達目標とする。</p>
疾病治療学A ★小倉 滋明	演習 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立にかかわる基本的病態の概念を述べ、各臓器・器官がどのような病態となって疾病へと移行して要治療となるのかを学習する。ここでは、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝・内分泌疾患について学習する。</p> <p>【到達目標】各臓器・器官の機能のメカニズムと心身の相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的な知識を習得する。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
疾病治療学B ★向井 正也	演習 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立にかかわる基本的病態の概念を述べ、各臓器・器官がどのような病態となって疾病へと移行して要治療となるのかを学習する。ここでは、消化器疾患、血液疾患、骨・筋肉疾患、腎・泌尿器疾患について学習する。</p> <p>【到達目標】 各臓器・器官の機能のメカニズムと心身の相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を習得する。</p>
公衆衛生学 ★村松 宰	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 人々を取り巻く環境は、人間の生理機能に影響を与え、健康の保持増進、健康障害の発生にかかわっている。地域で生活するすべての人々の疾病を予防することや、より良い健康レベルの獲得を目指すなどの健康に関する問題について、医学的、社会学的、疫学的、医療行政的視点から学び、組織的な保健活動について学習する。また、人々の健康を維持し、増進するための基礎的知識を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生の概念が説明できる。 2 衛生統計指標や人口統計指標の定義について説明できる。 3 疫学の方法論を理解する。 4 国の衛生行政と地方の保健所業務及び市町村の衛生行政業務について説明できる。 5 公衆衛生活動として感染症の予防対策や、生活習慣病の概念からライフスタイルの面から疾患の予防対策をあげることができる。 6 労働者の健康を維持する視点から職業性疾患について分類し説明できる。 7 人間の健康の維持増進、疾病の予防を実践するために関わる環境要因について説明できる。 8 WHOの機構及び機能と多国間協力の現状について概説できる。
社会福祉学 ★大内 高雄	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 現代における社会福祉の概念とその歴史的変遷について学習し、併せて、福祉サービスを必要とする人々の生活困難と社会福祉の関係を理解する。また、保健・医療・福祉の連携が重視されていることから、社会的な生活困難を抱える人々を総合的に支援する援助技術や社会福祉の果たす役割、今後の方向性についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 今日、社会福祉を必要とする背景と具体的諸問題を理解する。 2 今後の社会福祉を展望するにあたり、日本や諸外国の社会福祉の歴史や理念を理解する。 3 社会的な生活困難を抱える人々の地域自立生活支援を援助する技術を理解することと同時にその実践上の視点や方法を習得する。
家族社会学 原 俊彦	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 人間生活の基礎的な単位である家族が、現代社会で大きく変化しつつある現状を見据えながら、社会における家族の役割及び生活の場として家族が個人に果たす役割や機能について理解する。</p> <p>【到達目標】 家族と社会、家族と個人の関係についての関心や理解力を得ること。家族社会学の基礎的な専門用語を習得すること。</p>
医療情報 ★小笠原 克彦	演習 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 医療における情報機器の利用と注意点、医療情報を通じた医療者間の連携、患者情報の管理を理解するために、倫理や経営など社会科学的側面、コンピュータやシステムなど理工学的側面、電子カルテや各種システムなど医療的側面など多視点から見た医療情報について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療における個人情報の安全な取り扱いと管理方法を列挙できる。 2 医療における情報・システムの役割とその具体的な運用方法を説明できる。 3 医療における情報の発展的な活用方法を提示し、関連分野との関連性を説明できる。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・到達目標
症状マネジメント論 ◎樋之津 淳子 大野 夏代 須田 恭子 菅原 美樹 藤井 瑞恵 村松 真澄	演習 60時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】健康障害時の臨床症状の表れ方と人体機能の変化、特に生体試料である血液や尿等における種々の成分の変化との関連性を解析する。また、代表的な病態の自覚的及び他覚的な臨床所見の見方、臨床検査データの読み方、治療経過の評価を基に、看護の臨床の場で役立つ症状マネジメントを修得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 何らかの症状をもっている対象に必要な情報収集とアセスメントができる。 2 根拠をもとにした症状マネジメントの方法がわかり、一部実践できる。
基礎看護学臨地実習Ⅱ ◎樋之津 淳子 大野 夏代 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 星 美和子 渡邊 由加利 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 進藤 ゆかり 多賀 昌江 塚辺 蘭子 照井 レナ 松村 寛子 三上 智子 工藤 京子 小坂 美智代 鶴木 恭子 原井 美佳 福島 眞里 渕本 雅昭	実習 90時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】医療機関で療養生活を送る患者様を担当し、基本的な欲求に基づく生活援助を中心に看護過程を展開する。生活援助における基礎看護技術の一部を安全・安楽に実践するとともに、ケアの説明と同意を得るためのコミュニケーションスキル、看護ケアの実践的方法を学ぶ。以上により、看護の対象となる患者様やご家族の特性及び看護の必要性についての理解を深め、今後の学修のモチベーションを高める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 受け持ち患者との対人関係を築き、患者の特性や看護の必要性を説明できる。 2 対象に応じた看護過程の一連のプロセスを展開し、記述できる。 3 基本的な日常生活援助を安全に実施できる。 4 看護学生として、倫理基準に基づき、安全で責任ある行動を示すことができる。 5 受け持ち患者の看護過程の展開を通して自己の学修課題を明確にすることができる。
成人看護学概論 中村 恵子	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】成人期にある対象の身体・精神・社会的な特徴を理解し、対象の成長・発達を促す成人看護の中心概念とその理論について学ぶ。また、成人期にある人々の健康上の諸問題を総合的に学ぶとともに生活習慣と健康障害の関連など成人保健活動の基本について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 成人期にある対象の発達課題を基礎として、身体・精神・社会的特徴を述べるができる。 2 成人期の保健について理解し、成人期に経験しやすい健康上の諸問題について列挙できる。 3 健康障害の各経過の特徴を理解し、生活へ及ぼす影響について考えることができる。 4 成人期の健康障害に伴う治療について学び、成人看護援助論へ結びつけることができる。 5 健康障害を持つ対象を支援するための看護に必要な理論について学ぶ。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・到達目標
成人看護援助論 ◎須田 恭子 中村 恵子 菅原 美樹	演習 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】健康障害の病態と治療等を通して、成人期における生活習慣病などの健康障害を有する対象と、その家族に対する基本的看護援助方法について学習する。また、生活習慣病予防のための健康増進対策など、成人保健活動の援助についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康障害の病態と治療を理解し、成人期にある対象の周手術期・急性期・回復期・慢性期に必要な看護援助方法がわかる。 2 健康障害を有する対象と、その家族の心理・社会的側面に対する援助方法を理解し、看護過程の展開により必要な看護援助がわかる。
老年看護学概論 坂倉 恵美子	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】社会の構成員としての高齢者の存在の意味を考え、高齢者の特徴とその生活について、加齢による健康的側面と社会環境の両側面から理解を深める。また、老年保健および老年看護活動の基本的考え方、方法について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護学における老年看護学の位置づけを説明できる。 2 老年期にある人々の加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響を説明できる。 3 高齢者の保健・医療・福祉の変遷と将来予測を説明できる。 4 老年看護の機能と役割について説明できる。 5 現在自分もっている老年観を言語化し、洞察する必要性について説明できる。
精神看護学概論 ★山本 勝則	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】精神保健医療の変遷と現状を学びつつ、精神の成り立ちとメカニズムを知り、精神健康の保持増進及び疾病の予防と回復を援助する精神看護の役割と課題について理解する。また、精神障害のある対象の人権や福祉、精神保健について考える。</p> <p>【到達目標】精神看護学が精神保健医療において果たす役割と、精神障害者が抱える精神病理学的問題、また、そのために直面する生活上の課題について理解し、生活を再構成する精神看護の方法を修得できる。</p>
臨床薬理学 ★唯野 貢司	演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】薬理学で学んだ基礎的知識をもとに、臨床で使用されている薬物の中で、特に基本となる薬物について、投与方法及び量と薬理効果の関係、薬物が人体に作用する仕組みとともに学ぶ。また、薬物を使用する際に安全面で重要なことや看護における注意点を学ぶ。</p> <p>【到達目標】臨床で使用されている基本薬物について、投与方法及び量と薬理効果の関係、薬物が人体に作用する仕組みを正しく理解できる。また、薬物を使用する際に安全面で重要なことや看護における注意点を理解できる。</p>
疾病治療学C ★三澤 一仁	演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立にかかわる基本的病態の概念を述べ、各臓器・器官がどのような病態となって疾病へと移行して要治療となるのかを学習する。ここでは、外科疾患、感覚器系疾患、歯科・口腔系疾患、脳・神経系疾患について学習する。</p> <p>【到達目標】各臓器・器官の機能のメカニズムと心身の相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を習得する。</p>
チーム医療論 ◎河野 總子 中村 恵子	講義 15時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】医療従事者として、チーム医療について必要な知識を習得する。社会環境の変化に伴い、医療が細分化されるとともに高度な内容となってきており、医師が中心であった医療から対象を中心とした専門家集団による医療が求められるようになった。このことを踏まえ、医療従事者間の連携や協働について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 チーム医療の概念を学び、構成する各職種の役割を把握する。 2 チーム医療における患者・家族と医療従事者の関係について理解する。 3 医療従事者間の連携や協働について学ぶ。 4 チーム医療実践上の倫理的問題について理解する。

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学者選抜結果

附属図書館

役員会
及び教育
研究審議会

学内運営の概要

資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・到達目標
感染管理論 ◎スーディ神崎 和代 ★石角 鈴華	講義 15時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 人間を中心とした医療、看護、介護の立場から感染管理対策を学ぶ。また、医療機関などの施設における感染管理の重要性についての理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 感染症の成り立ちを理解し、院内感染と地域感染の相違を述べる事が出来る。 2 感染予防の手法、ハンドラブ等の薬剤・備品に関する知識への理解を述べる事が出来る。 3 感染予防管理と危機管理・医療の質の改善コンセプトの関係を述べる事が出来る。 4 CDC等の感染関連組織の機能を理解する。
臨床心理学 ★葛西 康子	講義 15時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 「ケアをすること (=ケアリング)」とは、健康問題に関わる援助実践を含んだ、人間の成長・発達の支援を意味している。このプロセスに生起するケアの担い手と受け手との関係性と協働作業について、臨床心理学の知見を紹介し学び合いたい。</p> <p>【到達目標】 本講義では、臨床心理学を対人援助学および「ケアをすること」として捉え、その基礎知識や臨床における視点の習得を目指す。そしてこれらを看護実践の場へ援用し思考することを目標におきたい。</p>
援助的人間関係論 ◎大野 夏代 樋之津 淳子 藤井 瑞恵	演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 看護の基本をなす対象との援助的人間関係の形成について理解を深めると共に、コミュニケーションの理論と技術を修得する。また、受容、共感について理解し、自己と他者との関係が成立し信頼関係を確立することによって援助が可能となることを学ぶ。</p> <p>【到達目標】 自己概念を再構築し、対人関係形成における自己の傾向に気づくことができる。援助者として聴くこと、伝えることができる。援助的人間関係を形成するために、意図的に関わる事が出来る。</p>
看護倫理学 ◎宮崎 みち子 ★リボウィツ よし子	講義 15時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 看護職に必要な倫理に関する基本的な知識と倫理的意識決定を行うための枠組みを理解する。さらに、看護ケアを行うという状況の中で、自分の価値と他者の価値を吟味し、倫理的観点からその価値の意味を考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 価値の特質が理解できる。 2 看護実践上の倫理的概念が理解できる。 3 看護における倫理的意識決定モデルの特徴が理解できる。 4 事例を基に、倫理的分析と倫理的意識決定が考察できる。
小児看護学概論 松浦 和代	講義 15時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 前半の講義では、乳児期から思春期までの子どもの成長・発達、および家族の発達に関する知識と基礎理論を学習する。後半の講義では、子どもの健康生活、育児支援、生活指導、ヘルспロモーションやセイフティプロモーションの概要を学ぶとともに、今日の課題を考察する。総じて、小児看護の役割、責務および実践活動の意義を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの人権、権利擁護、親権、子どもと親の意思決定のあり方について説明できる。 2 子どもの成長・発達、健康、家族と育児機能、生活環境について説明できる。 3 子どもの発達評価と環境アセスメントの方法を説明できる。
母性看護学概論 宮崎 みち子	講義 15時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 周産期のみならず広くライフサイクル各期にある母性とその家族の特性を身体的、心理的、社会的側面から捉え、現代社会に生きる対象について多面的に理解し、母性保健及び看護活動について学修する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 母性看護の基盤となる概念が理解できる。 2 母性看護の現状と課題が考察できる。 3 母性看護の対象特性が理解できる。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
成人看護学臨地実習Ⅰ ◎藤井 瑞恵 須田 恭子 菅原 美樹 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 進藤 ゆかり 多賀 昌江 塚辺 繭子 照井 レナ 松村 寛子 三上 智子 工藤 京子 小坂 美智代 鶴木 恭子 原井 美佳 測本 雅昭	実習 135時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】成人期にある対象を科学的視点でアセスメントし、個々の対象の健康レベルに応じた援助を実践するため、学習した技術を用いて看護過程を展開する能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 成人期にある対象をライフサイクルの側面から捉えることができる。 2 成人期にある対象を身体的、心理的、社会的側面から総合的に捉えることができる。 3 成人期にある対象の健康障害、健康レベル、環境をアセスメントすることができる。 4 看護問題を解決するために援助方法を計画することができる。 5 成人期にある対象の状況に合わせて援助を実施し、評価することができる。 6 成人期にある対象と援助の人間関係を形成することができる。 7 看護学生としての役割・責任を果たすことができる。
老年看護学援助論 ◎坂倉 恵美子 村松 真澄 ★東出 俊之	演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】老年期の加齢的变化や特有の疾患、症状についてその背景、原因、病態、治療等を学び、高齢者およびその家族を対象とした基本的援助方法について学習する。老年期にある人の健康状態に対する診断・治療過程における看護方法を自立支援の視点から学修する。高齢者ケアをめぐる社会制度の種類と内容を理解し、政策的課題について考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者特有の疾病と治療について理解し、加齢に伴う諸機能の変化と関連させて説明できる。 2 高齢者の周手術期・急性期・回復期・慢性期に必要な援助方法について説明できる。 3 高齢者の健康増進プログラムについて転倒予防、認知症予防の看護について説明できる。 4 要介護者家族や高齢者を取り巻くケアシステムの種類と内容について説明できる。
精神看護学援助論 ◎守村 洋 ★安田 素次	演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】精神障害のある対象の生活を理解するとともに、健康障害の病態と治療などを学び、精神の健康上の問題に直面している対象とその家族に対する基本的看護援助方法を学ぶ。また、社会生活の上で生じるさまざまな心の健康障害を持つ人の理解を深め、ライフサイクル各期の精神保健について学ぶ。</p> <p>【到達目標】精神障害者の病態像および生活への理解を深め、その治療法と基本的看護援助方法を習得する社会生活およびライフサイクル各期での精神保健について説明できる。</p>
在宅看護学概論 中村 恵子	講義 15時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】地域で在宅生活の継続を目指す、あるいは在宅における対象者の生活を困難にしている要因を追及するため、在宅看護の概念・諸制度を理解し、生活の維持・改善、健康の保持や増進に必要な看護活動の目的、展開方法と技術について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 在宅看護の機能と役割について理解する。 2 在宅看護とその対象者の特徴を理解する。 3 在宅看護の実施機関である訪問看護の活動と看護の専門性について理解する。 4 在宅ケアチームを構成する諸機関および専門職の役割と連携を理解する。

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学
者選
抜結
果附
属
図
書
館役員
会
及
び
教
育
研
究
審
議
会学
内
運
営
の
概
要資
料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・到達目標
在宅看護援助論 ◎菊地 ひろみ 坂倉 恵美子 ★工藤 和子	演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】健康障害をきたし、在宅看護の対象である在宅療養者及び要介護支援高齢者とその家族への理解を深めるとともに、在宅看護に必要な基本的な援助方法と、保健・医療・福祉システムの利用について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 在宅療養者および要介護支援高齢者の諸特徴を理解する。 2 在宅療養者および要介護支援高齢者の家族に対する援助の考え方について理解する。 3 在宅看護の展開方法について理解する。 4 訪問看護と他機関の連携の実際を理解する。 5 社会資源の活用と、在宅ケアチームにおける訪問看護師の役割について理解する。
がん看護学 ◎樋之津 淳子 ★松山 茂子	演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】がんの予防から診断と治療、さらに終末期における対象と家族を取り巻く状況を看護の視点から理解する。痛みの緩和等の症状マネジメント、対象の心身両面の苦痛を和らげる緩和ケアについても学び、がん看護の役割と看護活動について学修する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 がんを取り巻く看護・医療の動向を説明できる。 2 がんの症状をもっている対象に必要な情報収集とアセスメントができる。 3 症状緩和に向けた看護介入の方法がわかり、根拠を明確にできる。
保健医療福祉制度論 ★館石 宗隆	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】保健・医療・福祉に関する様々な制度・施策の中から、特に重要と思われるものを取り上げ、その歴史的背景を踏まえながら最近の施策の動向と将来の課題について学ぶ。同時に、地域における保健・医療・福祉制度の現状、課題、各種施策の方向性についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】各回の講義ごとに取り上げる制度・施策の概要、目的、背景及び今日までの歩み等について正しく理解し、自分自身の意見を基に議論することができる。</p>
保健統計 ★村松 宰	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】医療・看護分野のほとんどの分野において他の分野に比べると個体変異の大きい数値データや質問紙調査にみられる定性的データを扱うことが多い。このようなデータの解析に対して、共通に適用できるような数学的基礎を学ぶと共に看護分野に必要とされる統計解析上の基礎的知識を修得し今後の看護師業務および保健師業務や看護学研究に反映させる能力を養う。また疫学領域においてはEBN（科学的根拠に基づく看護学）の概念を理解しその実践能力を養う。特に疫学的分析前向き研究（コホート研究）、後向き研究（患者対照研究）、介入研究の代表的研究を理解する。その際にはデータを疫学的に処理する時に、バイアス・交絡などに常に注意し、疫学的思考態度を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 確率の初歩的な知識である確率変数、確率分布、期待値、分散などの概念を知る。 2 統計学の基本的概念である母集団、標本分布法則、中心極限定理、統計量などの基礎的事項を知る。 3 統計的手法の基礎となる推定、検定についてその考え方や応用の方法を理解する。 4 医学統計学の基礎を理解しそれを医学・看護領域のデータ解析にコンピュータを使って応用する。 5 疫学の定義と歴史を学習し、疫学で扱う指標、手法を学ぶとともに、その実践例を学習し応用できる。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
小児看護援助論 ◎松浦 和代 吉川 由希子 富樫 武弘	演習 30時間	3年次 前期	【科目のねらい】小児看護学概論を踏まえ、小児期に多い健康障害の病態、治療法および看護援助の方法について基本的な知識を学修する。 【到達目標】 1 小児の成長発達と健康状態について、正常と異常のアセスメントに必要な知識と技術を修得する。 2 小児期に多い疾患について、特有な症状、疾病発生のメカニズム、検査方法および治療法に関する基本的な知識を修得する。 3 主な疾患別に看護援助の要点を修得する。看護援助のあり方を、子どもと家族への発達支援の観点から考察する。
母性看護援助論 ◎宮崎 みち子 高室 典子 ★内田 亜紀子	演習 30時間	3年次 前期	【科目のねらい】女性のライフサイクル各期における生理的变化と特徴的な疾病・治療、および対象の生活上の課題を理解し、家族を含めた基本的看護援助について学修する。 【到達目標】 1 女性に特有な疾病が理解できる。 2 妊産褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的特徴、必要な保健指導が理解できる。 3 妊産褥婦および新生児に必要なケアが考察できる。 4 妊産褥婦および新生児を取り巻く家族に必要なケアが考察できる。
成人看護技術論 ◎須田 恭子 菅原 美樹 藤井 瑞恵 神島 滋子	演習 30時間	3年次 前期	【科目のねらい】成人看護援助論を踏まえて、成人期における健康障害を有する対象とその家族に対する援助技術について、看護過程を展開しながら学ぶ。また成人期において発症しやすい、がん、心疾患、脳血管疾患など生活習慣病の疾患に対する基本的な看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践へつないでいく。 【到達目標】 1 健康障害を有する対象とその家族への基本的な援助技術が実施できる。 2 看護過程を展開しながら効果的に看護を提供するための基本的な看護技術が実施できる。
成人看護学臨地実習Ⅱ ◎菅原 美樹 須田 恭子 藤井 瑞恵 神島 滋子 工藤 京子 小坂 美智代 淵本 雅昭	実習 90時間	3年次 前期	【科目のねらい】成人期にある対象の特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。疾病・健康問題に応じた生活支援と保健医療チームについて学ぶ。 【到達目標】 1 成人期にある対象の特性と看護ケアの特殊性が理解できる。 2 健康障害が対象と家族に及ぼす影響について、多方面から統合的にアセスメントできる。 3 看護過程を展開するうえで、健康問題を明らかにし、健康回復、適応促進、生活の再構築に必要な看護ケアの計画・実践・評価ができる。 4 対象の療養生活を支援する保健・医療・看護・福祉チームの役割と機能について説明できる。 5 看護専門職を目指す学生として、自覚と責任を行動で示すことができる。
老年看護学臨地実習Ⅰ ◎坂倉 恵美子 村松 真澄 進藤 ゆかり 原井 美佳	実習 45時間	3年次 前期	【科目のねらい】自立した生活を営む健康な高齢者との触れ合いを通して、高齢者の暮らしや健康への配慮の仕方を体験的に学ぶ。また、加齢に伴う身体的、社会的、心理的变化とその家族が抱える健康問題と日常生活上の困難な課題について考察する。 【到達目標】 1 老年期にある対象の発達課題を説明できる。 2 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面を説明できる。 3 健康高齢者が日ごろ感じている健康上のニーズ、行っている健康法について知り、説明できる。 4 健康高齢者の生活において老人福祉センターの果たす役割について知り、説明できる。

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学者選抜結果

附属図書館

役員会
及び教育
研究審議会
経営審議会

学内運営の概要

資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・到達目標
精神看護技術論 ◎守村 洋 河村 奈美子	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】精神看護援助論を踏まえて精神の健康上の問題に直面している対象とその家族に対する援助技術、対応方法について看護過程を展開しながら学ぶ。また、精神障害のある対象やその家族とのかかわり方や、看護に必要な基本的看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践へつなげていく。</p> <p>【到達目標】精神の健康上の問題に直面している対象者への効果的な看護技術を習得する。精神の健康上の問題に直面している対象者への看護過程を考えることができる。</p>
精神看護学臨地実習 ◎守村 洋 河村 奈美子	実習 90時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】精神看護の特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。</p> <p>【到達目標】対象とのかかわりを通し、精神障害のある対象を理解する。治療的コミュニケーションの技法及び精神科における看護援助を、実践を通して修得する。精神障害をもつ対象の生活を理解し、支援システムを説明できる。看護学生として責任ある行動や態度を修得する。</p>
在宅看護技術論 ◎菊地 ひろみ 坂倉 恵美子 保田 玲子 照井 レナ	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】在宅看護援助論を踏まえ、在宅看護、訪問看護に関する援助技術、知識、対応方法について、看護過程を展開しながら学ぶ。また、在宅療養者やその家族に対する看護に必要な基本技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践につなげていく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 在宅療養者の特性を踏まえた援助関係の基本を理解できる。 2 在宅看護の看護過程を展開し、必要な援助技術を明らかにできる。 3 訪問看護を実践するための基本的な看護技術を理解し、一部実施する。
在宅看護学臨地実習 ◎スーディ神崎和代 菊地 ひろみ 照井 レナ	実習 90時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】在宅で療養している人とその家族に対して提供する看護の役割・機能を理解するとともに、在宅療養者や障害者及びその家族の生活と健康を理解する。また、保健・医療・福祉の連携と、在宅ケアシステムの社会資源の活用方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 在宅看護対象者（以下、対象者）の生活および生活環境を認識し、関心を持てる。 2 対象者の身体的、情緒的、社会的特性を理解できる。 3 対象者と効果的なコミュニケーションをはかることができる。 4 家族をはじめとする介護者の生活および生活環境を認識し、関心を持てる。 5 対象者の健康問題の原因、程度および現在の状況が理解できる。 6 対象者と家族の問題解決能力をアセスメントし、問題の所在を示すことができる。 7 対象者に対して、生活機能の維持・向上の観点から支援を考えることができる。 8 在宅における生活援助技術を一部経験し、在宅における看護技術の特徴を理解する。 9 対象者の在宅療養を支える連携の必要性を認識し、関連専門職および関係機関の連携の実際を理解できる。 10 在宅看護に必要な看護の責任、倫理的配慮の重要性を理解できる。
リハビリテーション看護学 ◎★奥宮 暁子 ★石鍋 圭子 ★佐久間 隆	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】ライフステージにおける看護の対象やその家族の特徴と、生活行動を困難にしている障害の特徴を学習し、リハビリテーションの観点から看護の役割を理解する。また、疾患や障害に応じたリハビリテーションへの看護援助について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーションにおける看護の役割を説明できる。 2 生活行動を困難にしている疾病や障害の特徴を理解する。 3 障害を持つ人とその家族における生活の再構築のための看護支援を計画することができる。 4 自立に向けた安全・安楽な看護援助技術を習得する。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
認知症ケア スーディ神崎 和代	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】 老年期における認知症の発現過程と認知障害のある高齢者の援助方法について学ぶ。また、認知症を持つ高齢者の日常生活・社会生活への適応を支援する看護方法や介護家族を支援する方法、疾患進行遅延対策について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 認知症及びアルツハイマー病の定義をし、夫々の臨床的特徴を述べる事が出来る。 2 脳内の臨床的变化を理解すると共に重症度によるアルツハイマー病の分類と各レベルの特徴を述べる事が出来る。 3 米国の最新レベルの認知症ケア、医療、看護の在り方を説明する事が出来る。 4 認知症をコミュニケーション、栄養、環境の観点から理解し、支援方法を述べる事が出来る。 5 認知症をケアする現場においてケア実態を冷静に観察し、それらを文章、又は口頭で表現出来る。 6 認知症をもつ高齢者の家族やケア提供者の直面している課題を述べる事が出来る。
地域看護学概論 ◎加藤 登紀子 清水 光子 ★金川 克子	講義 15時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】 地域看護活動の概念と機能について理解し、人々が地域の生活の中で直面する健康問題を個人・家族・地域の問題として解決・改善するプロセスにかかわる看護活動及び地域保健について基本的な考え方と方法を学習する。また地域看護の対象及び活動、役割などについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域看護活動の歴史・概念や、地域における保健・看護活動の重要性を述べる事が出来る。 2 地域（コミュニティ）の健康レベルと社会情勢、生活環境との関連を述べる事が出来る。 3 ライフサイクル各期における多様な健康レベルにある人々への生活支援のポイントを述べる事が出来る。 4 地域看護活動分野に特有なコミュニティケアと保健師の役割が説明できる。
健康教育指導法 ◎加藤 登紀子 清水 光子 新納 美美 保田 玲子 松村 寛子	演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 健康教育の基本となる理念と教育活動に必要な方法（企画、方法及び評価）を理解する。また、健康についての知識の習得や態度を形成し、保健行動の獲得や変容のために重要な保健看護活動の実践に生かす。</p> <p>【到達目標】 健康教育の理念・理論・意義・目的を述べる事が出来る。対象（個人・集団）に適した健康教育の方法（企画・実施・評価）のポイントを述べる事が出来る。保健行動の獲得・変容・継続のための保健指導・生活支援の方法を述べる事が出来る。</p>
研究方法論 ◎松浦 和代 樋之津 淳子	演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 看護学と看護臨床における研究の意義、研究の概念、研究の方法論と基本的なステップを学修する。また、文献検索の実際を体験的に学修し、先行研究の活用方法を修得する。学修過程を通して、卒業研究に必要とされる基礎的な能力、態度、および倫理観を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護学と看護臨床における研究の意義、研究の概念、研究の方法論と基本的なステップについて説明できる。 2 関心のある看護研究課題について文献検索を行い、文献レビューを作成できる。 3 関心のある看護研究課題について研究計画書の作成を試み、理論的文脈を推敲する。

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学
者選
抜結
果附属
図書
館役員
会
及
び
教
育
研
究
審
議
会学内
運
営
の
概
要

資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・到達目標
小児看護技術論 ◎吉川 由希子 松浦 和代	演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】小児看護援助論を踏まえて、子どもとその家族を対象とした援助技術について看護過程の展開と共に学ぶ。また、健康障害をもつ子どもとその家族に必要な看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に修得し、看護実践能力の向上をめざす。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもと家族の健康生活への支援について基本的な援助技術を修得する。 2 小児に特有な看護技術について原理原則および標準的な手順を説明することができる。 3 事例演習を通して、子どもと家族に必要な看護過程の展開ができる。
小児看護学臨地実習 ◎吉川 由希子 松浦 和代	実習 90時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】小児看護の対象特性と看護ケアの特殊性を理解し看護に必要な基本的知識・技術・態度を養うとともに看護実践能力を向上させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 対象とのかかわりを通して、子どもの成長・発達・保育について理解を深める。 2 健康障害をもつ子どもと家族への生活支援について学ぶ。 <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの健康生活、育児支援、ヘルスプロモーションやセイフティプロモーションの基礎知識を踏まえて看護実践でき、その効果を評価できる。 2 疾患や障がいをもつ子どもと家族の看護、生活習慣の自立支援、健康教育や家族支援の基礎知識を踏まえて看護実践でき、その効果を評価できる。 3 対象者やチームメンバーと効果的なコミュニケーションをとることができる。
母性看護技術論 ◎高室 典子 宮崎 みち子 渡邊 由加利 多賀 昌江	演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】母性看護援助論を踏まえて、母性やその家族を対象とした援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。また、母性特有の症状や疾病の看護に必要な基本的看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に修得し、実践へつなげていく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 妊娠・分娩・産褥および新生児期にある事例を通して、看護計画を立案できる。 2 母性看護に必要な基本的技術を修得する。
母性看護学臨地実習 ◎高室 典子 宮崎 みち子 渡邊 由加利 多賀 昌江	実習 90時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】母性看護の対象特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 妊娠・分娩・産褥期にある母子と家族への援助について学ぶ。 2 次世代を育む家族機能と支援について学ぶ。 3 安全と人権を配慮した看護の実践を学ぶ。 4 生命の誕生の尊さを考える。 <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 妊産褥婦、新生児および家族に必要な看護過程が展開できる。 2 妊産褥婦および新生児の安全と人権を配慮した看護の実践ができる。 3 母性看護に必要とされる看護者の役割が説明できる。 4 母子の健康生活に関わる社会資源が説明できる。 5 生命（いのち）の誕生を通して、人間の生命尊重について考察できる。
老年看護技術論 ◎村松 真澄 坂倉 恵美子 進藤 ゆかり	演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】老年看護援助論を踏まえて、高齢者を総合的に評価する方法を学び、高齢者及びその家族を対象とした援助技術について学ぶ。また、高齢者に特有の症状や疾病の看護に必要な基本的看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に修得し、実践へつなげていく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の総合機能評価が理解できる。 2 高齢者の生活障害にあった看護援助技術ができる。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・到達目標
老年看護学臨地実習Ⅱ ◎村松 真澄 坂倉 恵美子 進藤 ゆかり 原井 美佳	実習 90時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 老年期にある対象を加齢や疾病とそれに影響される生活機能障害をもふくめ、総合的に理解し、対象個々のQOL向上に向けた援助ができる基礎的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老年期にある対象を身体的、精神的、社会的、発達の側面から統合的に説明ができる。 2 老年期にある対象の健康上の問題をアセスメントし、問題を抽出し看護計画が立案できる。 3 老年期にある対象の状態にあった援助方法を実施し、評価することができる。 4 老年期にある対象の人生と人格を尊重した態度を表出できる。 5 医療施設、介護保険施設において働く看護師の役割や他職種との連携・協働について説明できる。
透析ケア ◎★城下 弘一 ★佐々木 美乃	講義 15時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 透析患者の各種病態を理解し、それらをもたらし疾患と各症状、必要な処置及び療養方法について学ぶ。さらに、食事療法やストレスなど透析患者及びその家族が抱える課題や看護に必要な知識・技術を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 透析患者の病態、透析療法の原理、働きについて理解する。 2 透析患者の、自己管理への支援・精神的支援に必要な知識を学ぶ。 3 透析患者への必要な技術やケアを実践するために必要な知識を学ぶ。
重症集中ケア ◎菅原 美樹 中村 恵子 ★小山 昭人	講義 15時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 重症集中治療看護の概念および沿革と集中治療を必要とする患者の生命を支え、集中治療中の身体的、心理的、社会的側面から患者とその家族を援助する方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 集中治療と看護の歴史の変遷、特徴、役割が理解できる。 2 集中治療を必要とする患者の身体的・心理的・社会的特徴および家族の特徴が理解できる。 3 集中治療を受ける患者・家族への看護援助方法が理解できる。
救急看護学 ◎菅原 美樹 中村 恵子 ★三上 剛人	講義 15時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 救急患者の特徴と病態を理解し、それらをもたらし疾患と各症状、必要な処置など救急患者に対する看護に必要な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 救急医療・救急看護の特徴と役割が理解できる。 2 救急患者にみる多彩な病態と治療・看護について理解できる。 3 生命危機状況にある患者・家族の心理状態と心のケアの必要性が理解できる。 4 救急医療および救急看護の現状と課題について理解できる。
放射線医療管理論 ★池田 光	講義 15時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 医療を含め、さまざまな領域で利用されている放射線の物理学的性質、生物学的作用に関する基礎的知識を理解する。また、医療の分野を中心とした放射線利用、防護・障害防止の考え方について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 放射線の基礎を学習し、無用な不安を払拭するとともに、適切な防御を学習する。現在の医療は、診断、治療ともに、放射線機器なしでは成立しない。一般撮影、CT検査、RI検査など診断について、また放射線治療の基礎知識をあわせて習得する。</p>

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学者選抜結果

附属図書館

役員会
及び教育
研究審議会

学内運営の概要

資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・到達目標
ペリネイタルケア ◎吉川 由希子 高室 典子	講義 15時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】周産期にある母体、胎児、新生児を中心に、低出生体重児や早産児などの特徴や援助技術について学習する。また、母親を中心とした家族への支援や育児指導、保健センターにおける様々な相談窓口などの社会資源の活用についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 胎児期の成長発達と母体の健康管理について理解できる。 2 周産期にみられる母体の異常や胎児・新生児の異常と医療のあり方について理解できる。 3 低出生体重児や早産児の特徴と正常な成長発達を促すために必要な援助について理解できる。 4 母親を中心とした家族への支援のあり方と育児指導、および社会資源について理解できる。
パリアティブケア ★石垣 靖子	講義 15時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 治癒が困難な状態にある対象とその家族の心理的特徴を理解し、QOLを最良のものにするために必要な知識や技術を学ぶ。また、終末期の全人的なケアにおける理念、倫理的諸問題を理解し、ケアを提供する上で必要な技術の原理を理解し、その基本的な方法を習得する。</p> <p>【到達目標】 パリアティブケアを受ける対象とその家族が直面するトータルペイン（全人的苦痛）を理解し、クオリティ・オブ・ライフを維持・向上するための看護師の役割について考えることができる。</p>
寒冷地医療 ★前沢 政次	講義 15時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 積雪寒冷地の環境や生活について理解するとともに、寒冷地であることによる保健・医療・福祉分野における特徴や課題などについて学ぶ。また、寒冷地において人々が安全で安心して生活するための健康増進や看護・介護などの援助方法についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】 寒冷地特有の問題を住民生活の場から感知し、保健・医療・福祉・教育の場で活用できる知識・技術・態度を身につける。</p>
地域看護援助論 ◎清水 光子 加藤 登紀子 新納 美美 保田 玲子 塚辺 繭子 松村 寛子	演習 60時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 地域看護活動に特徴的な援助方法の基盤となる基本的な理論、知識および技法について学ぶ。特に、個人・家族のセルフケア能力を高める援助方法、特定の集団に特徴的な問題を解決するための援助方法について理解を深める。また、地域における看護職の機能と役割を理解し、地域ニーズに対応した保健活動の展開と実践方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域看護の対象となる人々の特性を理解し、セルフケア能力を高めるための効果的な援助方法（健康相談、健康診査、健康教育、家庭訪問、地域組織活動）を説明又は実践することができる。 2 地域看護活動（行政、産業、学校）の目的、目標、役割、機能を説明することができる。 3 個人・集団への看護活動や地区情報から地域の健康課題を明確にし、地域ニーズに対応した保健事業を考えることができる。
看護教育学 ★近藤 潤子	講義 15時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 看護教育の基本となる教育の目的と概念、日本における看護教育制度、看護教育におけるカリキュラムのプロセス、教授・学習、評価といった看護教育の展開の過程について理解し、教育の現状と今後の課題について考察する。</p> <p>【到達目標】 教育の概念を理解する。看護教育の現行制度とその成立過程を理解する。カリキュラム・教授計画のたて方の基本を理解する。</p>

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・到達目標
学部連携演習 ◎河野 總子 坂倉 恵美子 松浦 和代 宮崎 みち子 大野 夏代 守村 洋 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 菅原 美樹 新納 美美 藤井 瑞恵 保田 玲子 ◎齋藤 利明 武邑 光裕 石崎 友紀 上遠野 敏 城間 祥之 杉 哲夫 中原 宏 羽深 久夫 望月 澄人 矢部 和夫 吉田 和夫 エル サニ マロアン 武田 亘明 張 浦華 フィッシャー ニーナ 細谷 多聞 斉藤 雅也 那須 聖 山田 良	演習 60時間	3年次 後期～ 4年次 前期	<p>【科目のねらい】 看護学部およびデザイン学部学生を対象に、基本的な専門教育の理解の上に、両学部相互の専門性に触れさせ、学生自身の専門性を広げるとともに、異分野の人材と連携する能力を養うことを目的に両学部合同による演習を行う。両学部の学生を少人数グループに編成し、看護、デザイン相互にかかわりのあるテーマや課題について、相互の学生が共同・協力して課題解決に取り組む。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護およびデザインの自己の専門性について理解を深める。 2 相互の専門性を尊重し合い、協同して課題に取り組む姿勢を身につける。 3 課題の発見・解決プロセス（課題解決プロセス）を習得する。 4 異分野の専門性に触れることを通して、自身の専門性を拡充することができる。

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学
者選
抜結
果

附
属
図
書
館

役
員
会
及
び
教
育
研
究
審
議
会
経
営
審
議
会

学
内
運
営
の
概
要

資
料

4) 実習概要

授業科目	実習期間	実習機関	延べ人数
看護初期実習	平成20年6月9日～13日	市立札幌病院	83人
		市立札幌病院静療院	15人
		札幌市はるにれ学園	12人
		札幌市かしわ学園	9人
		札幌市みかほ整肢園	12人
		札幌市ひまわり整肢園	11人
		札幌市第二かしわ学園	12人
		札幌市あかしあ学園	12人
		札幌市中央老人福祉センター	15人
		札幌市東老人福祉センター	15人
		札幌市厚別老人福祉センター	12人
		札幌市豊平老人福祉センター	14人
		札幌市南老人福祉センター	12人
		札幌市西老人福祉センター	15人
		札幌市中央区介護予防センター大通公園	9人
		札幌市東区介護予防センター北栄	11人
		札幌市豊平区介護予防センター美園	8人
		札幌市南区介護予防センターまこまない	7人
		札幌市手稲区介護予防センター中央・鉄北	11人
		札幌北訪問看護ステーション	6人
札幌東訪問看護ステーション	7人		
札幌白石訪問看護ステーション	6人		
札幌厚別訪問看護ステーション	6人		
札幌清田訪問看護ステーション	6人		
札幌西訪問看護ステーション	6人		
基礎看護学臨地実習Ⅰ	平成20年10月20日～24日	市立札幌病院	216人
		手稲溪仁会病院	116人
基礎看護学臨地実習Ⅱ	平成20年5月26日～6月6日	市立札幌病院	486人
		手稲溪仁会病院	234人
小児看護学臨地実習	平成20年11月25日～12月19日 平成21年1月19日～30日	市立札幌病院	175人
		KKR札幌医療センター	151人
		札幌医科大学附属病院	72人
		天使病院	68人
		札幌市みかほ保育園	6人
		札幌市山の手保育園	15人
		札幌市若草保育園	12人
		札幌市新川保育園	15人
		札幌市新琴似保育園	15人
		札幌市あけほの保育園	6人
札幌市青葉保育園	6人		

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学者選抜結果

附属図書館

役員会
及び教育
経営審議会
研究審議会

学内運営の概要

資料

授業科目	実習期間	実習機関	延べ人数
小児看護学臨地実習	平成20年11月25日～12月19日 平成21年1月19日～30日	札幌市東札幌保育園	12人
		札幌市白石保育園	13人
		札幌市東白石保育園	10人
		札幌市豊園保育園	6人
		札幌市美園保育園	6人
		札幌市山の手乳児保育園	6人
		札幌市澄川乳児保育園	12人
		札幌市北乳児保育園	12人
		札幌市新琴似乳児保育園	12人
		札幌市菊水乳児保育園	4人
		札幌市東札幌乳児保育園	6人
		札幌市豊園乳児保育園	6人
		東区保育・子育て支援センター	16人
		豊平区保育・子育て支援センター	6人
西区保育・子育て支援センター	6人		
手稲区保育・子育て支援センター	15人		
母性看護学臨地実習	平成20年11月25日～12月19日 平成21年1月19日～30日	市立札幌病院	358人
		札幌医科大学附属病院	174人
		天使病院	116人
		北海道社会保険病院	116人
成人看護学臨地実習Ⅰ	平成20年11月4日～21日	市立札幌病院	689人
		手稲溪仁会病院	208人
		KKR札幌医療センター	117人
成人看護学臨地実習Ⅱ	平成20年6月23日～8月1日	市立札幌病院	773人
老年看護学臨地実習Ⅰ	平成20年5月19日～23日	札幌市中央老人福祉センター	27人
		札幌市北老人福祉センター	27人
		札幌市東老人福祉センター	27人
		札幌市白石老人福祉センター	24人
		札幌市厚別老人福祉センター	27人
		札幌市豊平老人福祉センター	27人
		札幌市清田老人福祉センター	12人
		札幌市南老人福祉センター	15人
		札幌市西老人福祉センター	27人
		札幌市手稲老人福祉センター	27人
老年看護学臨地実習Ⅱ	平成20年11月25日～12月19日 平成21年1月19日～30日	西円山病院	280人
		介護老人保健施設グラールネ北の沢	168人
		慈啓会病院	105人
精神看護学臨地実習	平成20年6月23日～8月1日	市立札幌病院静療院	260人
		中江病院	251人
		札幌花園病院	175人

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内運営の概要

資料

授業科目	実習期間	実習機関	延べ人数
在宅看護学臨地実習	平成20年6月23日～8月1日	札幌市中央区第1地域包括支援センター	8人
		札幌市北区第1地域包括支援センター	10人
		札幌市北区第2地域包括支援センター	24人
		札幌市東区第1地域包括支援センター	20人
		札幌市東区第2地域包括支援センター	8人
		札幌市白石区第1地域包括支援センター	8人
		札幌市白石区第2地域包括支援センター	22人
		札幌市豊平区第1地域包括支援センター	20人
		札幌市南区第1地域包括支援センター	14人
		札幌市西区第2地域包括支援センター	21人
		総合支援センターえがお	20人
		中央相談センター	8人
		北相談センター	12人
		東相談センター	12人
		白石相談センター	12人
		豊平相談センター	12人
		南相談センター	8人
		西相談センター	8人
		手稲相談センター	8人
		札幌北訪問看護ステーション	22人
		札幌東訪問看護ステーション	22人
		札幌白石訪問看護ステーション	24人
		札幌西訪問看護ステーション	24人
		札幌手稲訪問看護ステーション	30人
		訪問看護ステーションあいしん	16人
		訪問看護ステーション円山	16人
		溪仁会琴似訪問看護ステーション	16人
		はまなす訪問看護ステーション	9人
		訪問看護ステーションあおば	16人
		訪問看護ステーション本郷	14人
訪問看護ステーション時計台	16人		
来夢ライン訪問看護ステーション	16人		
来夢ライン療養通所介護事業所	12人		
居宅介護支援事業所 西円山敬樹園	8人		
指定居宅介護支援事業所 東札幌	22人		
指定居宅介護支援事業所 デイ・グリューネン	22人		
KKR札幌医療センター訪問看護室	16人		
札幌徳洲会病院在宅医療室	38人		

5) 質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）

教育GP「学年別OSCEの到達度評価と教育法の検討」平成20年度の主な事業実績

年月日	事業実績
平成20年6月20日 ～7月16日	模擬患者養成フォローアップ研修の開催 ※開催日・参加者数:6月20日(4名)、6月27日(4名)、7月2日(4名)、7月11日(4名)、7月16日(4名)
平成20年9月18日 ～10月17日	模擬患者養成コースの開催 ※開催日・参加者数:9月18日(52名)、9月25日(45名)、10月2日(48名)、10月9日(42名)、10月16日(45名) ※授業見学会(10月3日～17日 全3回実施、延べ45名)
平成20年10月15日	看護学部FD・SD研修会「教育GP採択報告」の実施
平成20年11月～	教育GP推進会議の開催(全6回) 実習室に各種シミュレータの導入
平成20年11月19日	全学FD・SD研修会「教育GPの獲得経緯、今後の計画及び展望」の実施
平成20年12月	パンフレットの作成・配布及びホームページの公開
平成21年1月～	看護実践記録用紙による各学年の到達状況の調査を実施
平成21年1月9日	看護学部FD研修会「ファシリテータとしての教育力を磨く」の実施
平成21年1月12日	大学教育改革プログラム合同フォーラム(開催地:横浜市)参加、ワークショップ及びパネル展示
平成21年1月15日	模擬患者養成コース特別講演会「看護学教育における模擬患者の役割」の実施
平成21年1月23日 ～25日	岐阜大学教育研修ワークショップ参加
平成21年2月10日	臨地実習指導者会議の開催
平成21年2月20日 ～26日	1～3年次OSCE実施 ※実施日・参加者数:2月20日(3年次生66名)、2月23日(1年次生62名)、2月26日(2年次生58名) 学年別評価及び学生への個別フィードバック、スーパーバイズの実施 模擬患者養成コースとしてOSCE見学会を実施
平成21年3月～	1～3年次の到達度評価の検証 到達目標・看護技術項目・シラバスの再検討
平成21年3月23日	本学と病院との連携協力に関する意見交換会の実施
平成21年3月25日	成果報告会・意見交換会の実施 ※参加者数:成果報告会99名、意見交換会54名 成果報告書の作成

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内運営の概要

資料